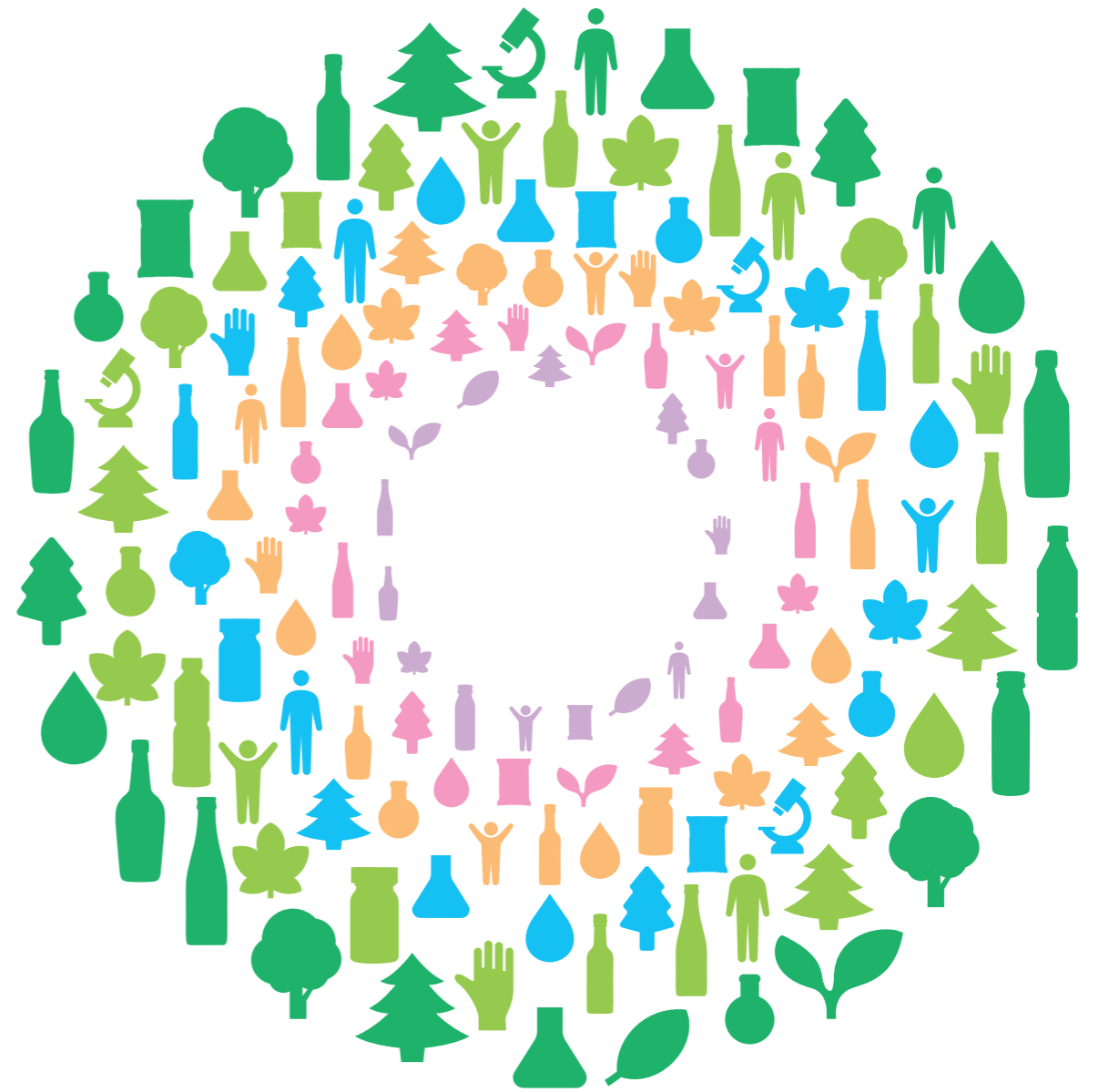


養命酒製造株式会社
CSRレポート 2017



養命酒製造株式会社

〒150-8563

東京都渋谷区南平台町16-25

<http://www.yomeishu.co.jp>

TEL:03-3462-8111 (代表) FAX:03-3462-8340



会社概要

Corporate Profile

社名	養命酒製造株式会社 (YOMEISHU SEIZO CO., LTD.)
所在地	東京都渋谷区南平台町16-25
代表者名	代表取締役社長 塩澤太郎
設立	大正12(1923)年6月20日
資本金	16億5,000万円
事業内容	養命酒、酒類及び医薬品等の製造・販売 飲食店及び売店の経営、不動産の賃貸 自然エネルギー等による発電事業及び 電気の供給・販売等に関する業務
年間売上	122億円(2017年3月期)
従業員数	272名(2017年3月31日現在)

編集方針

Editorial Policy

本報告書は、養命酒製造株式会社が発行するCSRレポートであり、当社と関わりのあるすべてのステークホルダーの皆様に対し、当社の社会的責任とそれに対する各種の取り組み状況をご理解いただくことを目的とし、2016年度の1年間に取り組んだ活動を報告書として取りまとめたものです。ステークホルダーの皆様に対して分かりやすい情報開示に努め、さらなる対話の起点となるツールとしていきたいと考えています。

▶ 本報告書に対するお問い合わせ

養命酒製造株式会社 マーケティング部
〒150-8563 東京都渋谷区南平台町16-25
TEL:03(3462)8196 FAX:03(3463)9808

報告期間

原則として2016年4月1日～2017年3月31日までの活動を対象としています。ただし、必要に応じて同期間の前後の活動内容も掲載しています。

報告範囲

養命酒製造株式会社の活動

対象読者

商品・サービスをご利用のお客様及び生活者、お得意先企業、株主、取引先(協力会社・仕入先)、従業員、行政、地域社会等、幅広いステークホルダーの皆様を対象としています。

発行日

2017年11月

目次

Contents

会社概要	01
編集方針	
トップメッセージ	03
特集 「ポジティブエイジングケアカンパニー」 を目指して	05
1 環境への取り組み ～豊かな自然環境を未来へ～	11
2 いつまでも健康に ～すこやかな暮らしの実現～	13
3 お客様とともに ～安全で安心な商品をお客様へ～	15
4 地域社会とともに ～地域の発展に向けて～	17
5 社員とともに ～いきいきと働ける職場づくり～	19
6 CSRを支えるしくみ ～信頼される企業であるために～	21
商品紹介&会社の歩み	25

人々の「健やかに、美しく、歳を重ねる」という願いを叶える企業であり続けます。

「養命酒」は創始者塩澤宗閑翁の「世の人々の健康長寿に尽くしたい」という願いから誕生いたしました。人々の健康生活に貢献したいという想いは、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という当社の経営理念に今も途切れることなく受け継がれ、事業活動の礎となっております。

「いつまでも健康でいたい」というのは人々の共通の願いです。健康への関心は治療から予防へ、また食については安全・安心はもちろんのこと、環境に配慮した自然志向を求める傾向が年々高まっております。このような状況の中で、創業以来変わらない価値と品質を守りながら、変化する社会環境やお客様の新たなニーズに応えるために、「ポジティブエイジングケアカンパニーとして、健やかに、美しく、歳を重ねることに貢献する」という事業ビジョンを掲げ、お客様視点に立った新規事業の確立やCSR経営に取り組んでおります。

経営理念で謳っている「豊かな健康生活に貢献」とは、すなわち「ポジティブエイジングケア」の実現にほかなりません。健康への貢献にはさまざまなアプローチがありますが、当社は「未病」の段階で病気になることを予防することを基本的な理念としています。そして近年は、未病状態になる前から生活者の皆様の健康

生活に貢献するために、新規事業として医薬品以外の分野でも展開を始めています。そこから生まれたのが「抗糖化」というテーマで、商品開発センターでは、産学連携で研究・開発を進めています。その他にも、健康を保つための「未病の予防」、「健康の支援」といった啓発活動にも力を入れております。こういった取り組みによって、個人の生活の質を高めるだけでなく、健康寿命の延伸、社会保障費の軽減といった社会全体の課題解決にも貢献できると考えております。

また私自身、お客様である生活者の皆様と当社との距離を近づけることを第一に、お客様へのおもてなしの気持ちを大切にしてきました。当社は、薬用養命酒にお問い合わせ専用ハガキを同梱し、お客様の声にきちんと耳を傾け、ご意見に対してお返事を差し上げるという活動を1952年より行ってまいりました。この想いは商業施設「くらすわ」や駒ヶ根工場内の「養命酒健康の森」にも反映しています。森に囲まれた併設のカフェで水と緑を感じながら健康を意識したメニューをお召し上がりいただければ、身もこころもリフレッシュし、「活然の気を養う」という言葉そのものの体験をしていただけるでしょう。こうしたおもてなしのところが通じ合う社会づくりや絆づくりも健康生活に欠かせないと考えております。

世界共通の課題である環境保全に関しては、循環型社会の形成に貢献すべく原料残渣のリサイクルを進めています。原料残渣を堆肥化し、再び薬用養命酒の原料となる生薬を自前で造る循環を構築するため、継続的に試験を行っているところです。また、原料の安定的確保や生物多様性保全の考えから、生薬の国内栽培化にも取り組んでいます。

今後も、本報告書でご紹介しているCSR活動を含め、さまざまな形で私たちの想いを生活者の皆様にお届けし、皆様の健やかな毎日にもっとも寄り添う企業を目指して取り組んでまいります。

養命酒製造株式会社
代表取締役社長

塩澤 太朗



経営理念とあるべき姿

- 経営理念** 生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する
- 企業ビジョン** 健全で、強い、良い会社
- 事業ビジョン** ポジティブエイジングケアカンパニーとして、健やかに、美しく、歳を重ねることに貢献する

行動規範

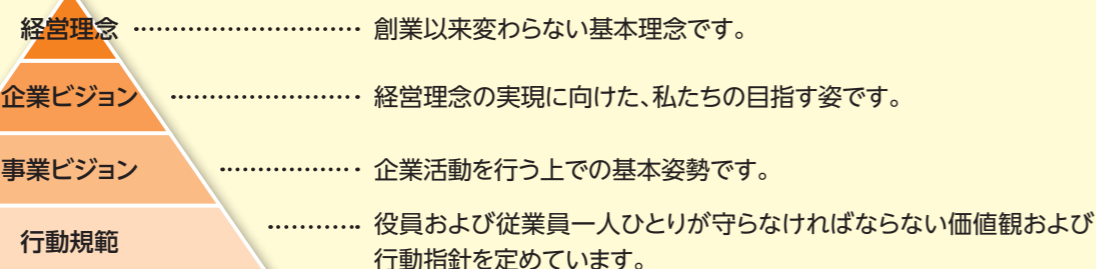
私たちは、社会から信頼され、社会の一員として存続し、成長し、発展していくことを目指し、以下の行動規範を基本として、企業の社会的責任(CSR)を果たします。

- ① お客様の満足
- ② 透明性のある情報
- ③ 社員に対する責任
- ④ 公正で適正な取引
- ⑤ 情報の管理と保護
- ⑥ 反社会的勢力の拒絶
- ⑦ 良き隣人として
- ⑧ 地球環境の保全

経営理念のもと、ステークホルダーの皆様とより強く、深く

社会に必要とされる企業として、環境・自然・循環型社会への貢献、生活者視点に立った品質と安全・安心の保証、健やかな暮らしの実現に向けた情報発信と啓発、働きがいのある積極的な企業風土の醸成、コーポレートガバナンスの強化などを意識し、ステークホルダーの皆様との絆を深め、理解促進に取り組んでまいります。

ステークホルダーの皆様とのつながり





健やかに、美しく、
歳を重ねることに貢献する
養命酒製造株式会社

「ポジティブエイジングケアカンパニー」を目指して

私たちの想い

「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、2015年度にスタートした中期経営計画では、「ポジティブエイジングケアカンパニーとして、健やかに、美しく、歳を重ねることに貢献する」という事業ビジョンを定めました。

私たちは長年の生活者の皆様との対話から、「健康」とは歳をとることに抗うことではなく、不安なく毎日を過ごせるよう

前向きに歳を重ねていくことだと考えています。この事業ビジョンで大切にしていることは、「からだに良い」ものを、「美味しさ」と「楽しさ」を感じながら摂取して歳を重ねていく、前向きなエイジングケアです。これまで培った技術や知見を活かしながら、さまざまなシーンで生活者の皆様の健康生活に貢献すべく、お客様視点の事業を展開しています。

「いつまでも健康でいたい」という声に応える

2000年にWHO(世界保健機関)が健康寿命の延伸を社会的課題として提唱しました。誰もが「いつまでも健康でいたい」と願っています。しかし、長寿社会の今、ずっと健康な状態にいることは難しく、未病や病気を一度は経験し、予期せず不健康な期間が長くなってしまうこともあります。私たち

は、お客様から寄せられた「いつまでも健康でいたい」という声にお応えするために、「養命酒」の製造で培ってきた東洋医学の知見と生薬・ハーブの技術を基盤に、「からだに良い」、「美味しさ」と「楽しさ」を追求した「ハーブのお酒」や「エイジングケア」などの新規事業に取り組んでいます。

からだところろ、社会の健康のために

私たちは、健やかに、美しく、歳を重ねるためには、「からだの健康」だけではなく、「こころの健康」と「社会の健康」が大切だと考えています。

近年、健康のために炭水化物を控える、副菜・主菜を先に食べ、主食は最後にして糖質の吸収を抑える(ベジタブルファースト)など、より健康的な食べ方を取り入れる人が増えています。また、動画レシピを参考に料理を作ったり、作った料理やレストランの食事をソーシャルメディアに投稿・シェアしたりと、食生活にプラスαの付加価値も求められています。

「からだに良い」ものだけでなく、「美味しさ」と「楽しさ」も満たされることで「豊かさ」を感じるなど、多くの方の食生活の価値観や意識が変化しつつあります。また、核家族化が言われて久しくなりますが、生活が豊かになるにつれ、人と人との絆を求める人も増えています。今、食生活を取り巻く環境は、大きく変化してきていると言えるでしょう。

私たちは次に挙げる事業や企業活動を通して、変化しつつある生活者の皆様の意識や価値観に応え、皆様のからだの

健康、こころの健康、社会の健康に貢献するよう力を尽くしています。

「ハーブのお酒」では、これまで培ってきたハーブの知見を活かして、元気・美容・リラックスをコンセプトに、新たなお酒の価値を追求しています。

「エイジングケア」は、「食べる前のうるる酢Beauty」や「養命酒製造の黒酢」、「グミメサブリ」などを発売。業界に先駆けて、老化の原因とも言われる糖化現象に注目し、産学連携で糖化を防ぐ商品の開発も進めています。

信州の豊かな自然に触れ、リラックスした時間を過ごしていただくために、駒ヶ根工場の敷地内を「養命酒健康の森」として整備し開放しています。また、諏訪湖畔にある「くらすわ」では、施設内イベントホールを地域交流の場として活用、地域社会との絆を深めています。

その他、自治体や企業とコラボレートし、健康セミナーやイベントを開催。ホームページや冊子などでその内容を発信しています。

研究開発

生薬・ハーブの知見と未病対策研究で健康ニーズに応える

生活者の健康に貢献する新商品を生み出す商品開発センター

商品開発センターの前身である中央研究所は、現代の科学が生まれる前に造られた経験的所産である「養命酒」に現代科学の光を当て、その内容や効能を科学的に解明し、常に時代のニーズに応じた「養命酒」とするための研究開発部門として1964年に設立しました。そして2014年に新商品の開発・研究に注力する部門としての位置づけを明確にするため「商品開発センター」に名称を変更しています。

中央研究所時代に行われてきた「養命酒」の配合生薬に関

する研究や生薬栽培研究、滋養強壮効果に関する研究の方法や考え方が現在の商品開発センターの特徴や強みにつながっています。生薬に関する基礎研究がハーブの活用技術へ、滋養強壮・冷え・胃腸虚弱といった「養命酒」の効能研究が、近年社会で必要とされている未病対策研究へと受け継がれています。ポジティブエイジングケアを実現するための商品を開発し、その商品を通じて、生活者の皆様の健康に貢献できるよう、新商品の開発に取り組んでいます。



エイジングケア商品の開発

抗糖化に着目した「糖化ストレス研究」

人の老化は20～30代から始まり、その原因の一つに「糖化ストレス」があります。糖化とは、体の中で余った糖分がタンパク質と結合して、結合したタンパク質を劣化させる現象です。また「AGEs（終末糖化産物）」によって糖化したタンパク質が、体の機能低下を起こす原因の一つであることは科学的にも明らかになっており、肌の老化や高齢者に多い脳血管疾患や認知症、高血圧などにも糖化ストレスが関わっています。



糖化ストレス研究発表の様子

センター長の丸山は、「糖化と並んで体に不具合を引き起こす原因に酸化がありますが、酸化は人類を含む動物が数十万年以上にわたり戦ってきた相手であるため、体の随所に防御機構が備わっています。これに対して糖化との戦いは、食生活の変化により数十年前から始まったため、人間の体には十分な防御機構ができていません。そのため人為的な防御をしていく必要があります。当センターがその手助けができればと考えています。」と話します。

商品開発センターでは2013年より糖化ストレス研究に着手し、2015年4月に同志社大学生命医科学部との産学連携で「糖化ストレス研究センター」を立ち上げています。



商品開発センター
センター長
丸山 徹也



マーケティング部
エイジングケアグループ
鈴木 和重

森から生まれた贈り物「クロモジ」の更なる活用に向けて

高級爪楊枝などで有名なクロモジは、リラックス効果のある甘くさわやかな香りが特徴です。その幹枝は薬用養命酒の原料生薬「烏樟^{フシヨウ}」として用いています。同志社大学との共同研究で670種ものハーブの効能分析を行ったところ、クロモジに含まれるポリフェノールは糖化を抑える効果が高く、糖がタンパク質と結合するのを阻害する効果だけでなく、既に結合してしまったAGEsを分解する効果があることが確認されました。また、抗疲労、抗ウイルス、抗酸化といったさまざまな効果も期待されています。



エイジングケア担当の鈴木は、「現在、このクロモジの香りや機能を活用した商品開発に取り組んでいます。森の贈り物であるクロモジを、当社のオリジナル素材として、さまざまな事業に展開していきます。」と、意気込みを語りました。

お客様の声に向き合って、美味しく、楽しく、続けられる商品に

お客様の生活の負担にならないよう摂取のハードルを下げて、毎日続けられるように、美味しく、楽しく、健康になれる、そのような「ポジティブさ」を大切に、お客様視点の商品開発に取り組んでいます。「売場や自社商業施設「くらすわ」に向いて、お客様の生の声を取り入れるようにしています。また商品発売後も、お客様相談室に寄せられた声を確認し、自分たちの仮説が本当に合っていたか確かめて、次の商品開発に活かすようにしています。商品開発センターと私たちマーケティングチームはいつもお客様に寄り添い、お客様の明るく、元気な毎日に貢献しています。」とエイジングケア担当の川森は語りました。



マーケティング部
エイジングケアグループ
川森 亜理沙



ものづくり品質

安全・安心をお届けする ものづくり品質

長年の経験に裏付けされた薬酒づくりの技術を活かして

「ハーブのお酒」は、薬用養命酒と同じ駒ヶ根工場で、薬用養命酒と同じ製法の「合醸法」で造っています。合醸法とは、複数のハーブをブレンドしたものを一定期間アルコールに漬ける製法です。加温することなく、アルコールを数回巡回さ

せて、それぞれに個性のあるハーブの味わいと香りを引き出し、最適なバランスに仕上げています。ハーブによって抽出の速さが異なるため、高度な技術と管理が必要となります。

商品づくりの原点である清らかな水と厳選した原料

水
商品づくりには、自然豊かな中央アルプスの花崗岩層に長い時間をかけて磨かれ、地中深くに眠っていた水を、地下150mの水脈から汲み上げ、適正な処理を施して使用しています。この地でとれる水は、体に染み込むようなさらりとした口あたりの、ミネラルバランスの良い極軟水です。

原料
原料にさまざまなハーブを使用していますが、美味しさと心地よい香りを守るため、良質のハーブを選ぶことに手間と時間を惜しみません。ハーブはその大部分を輸入しているため、信頼できるサプライヤーを選定、必要に応じて産地を訪問するなど、品質向上と安全性の確保に努めています。また、工場に入荷したハーブは、「微生物」、「残留農薬」、「性状」などの検査を実施、当社基準に合うもののみを使用しています。

認定検査員による官能検査

駒ヶ根工場では、安全・安心な商品をお客様にお届けするために、製造工程ごとに品質検査を実施しており、商品の出荷前には検査員による目視やカメラ撮影によるチェックも行っています。また、駒ヶ根工場で作る「ハーブのお酒」は、社

内の認定試験に合格した官能検査のスペシャリストによって異味・異臭の有無を確認しています。無着色・無香料の商品は、味と香りのバランスも確認しています。

「ハーブのお酒」でお酒の新たな価値を追求

食生活の健康ニーズに応えるために

平均寿命の延伸にともない生活者の健康意識が高まる中、日常の食生活から健康になろうという意識が高まっています。酒類も例外ではなく、これまで培ってきた知見を活かし、合醸法で造った「ハーブのお酒」という新しい展開を始めました。



「糖質ゼロやプリン体オフといった機能を謳うビールやお酒が続々と登場し、お酒でもからだに良いものというニーズが増えています。」と酒類開発の加藤。健康のお酒は、「味や香りだけではなく、ハーブから得られる自然のチカラをうまく活かしたお酒です。オフやゼロのように、もともとあるものを削っていくという考えではなく、自然そのものの恵みや風味を活かし、飲むところもからだもリラックスできるように考えて造りました。」



マーケティング部
酒類開発・
営業戦略グループ
加藤 麻美



商品開発センター
商品開発第1グループ
入江 陽

からだに良いものを、特許製法*を使ってもっと美味しく

「滋養強壮剤などで有名な高麗人参ですが、独特の風味があり、からだに良いけど摂りにくい。これが課題でした。」と話すのは、商品開発センターの入江。そこで、無数にあるハーブの組み合わせや配合量など、約3年半、試行錯誤を繰り返して、たどり着いたのが高麗人参とカルダモン、甜杏仁を組み合わせ、高麗人参のクセを抑えるブレンド技術でした。このブレンド技術は特許を取得*し、「ハーブの恵み」と「高麗人参酒」に使用しています。入江は「美味しいと思ってもらうのが一番。そして飲んで健康になってもらいたい。」と笑顔を見せました。これからも当社らしいからだにうれしい素材を、美味しくとっていただくために、素材研究や製法開発に取り組んでいきます。

*特許 第4372187号



ハーブの良さを、もっと身近に感じてほしい

女性の社会進出が進むとともに女性の飲酒機会が増えています。女性にうれしいハーブとフルーツの美味しさを組み合わせた新しいお酒「フルーツとハーブのお酒」を展開しています。

酒類開発の小川がいつも考えているのは、「自分の健康にまだまだ興味のない若い世代の人にも、ハーブの魅力をもっと知ってほしい。美容やリラックスといった身近なところから自分のからだやこころの状態を気遣うようになってほしい。」ということ。いくつもハーブをバランスよく、美味しく組み合わせるのは、当社にしかない技術。「お酒だけど、飲んで元気になる、美味しいだけでなくからだにも良い、そういう新しい価値のある商品をお客様にお届けしていきたい。」と、今後の夢を語りました。



マーケティング部
酒類開発・
営業戦略グループ
小川 祐子

1 環境への取り組み

～豊かな自然環境を未来へ～

自然との調和を目指し、省エネ・省資源、再資源化など環境負荷の低減に取り組んでいます。

Eco Factory 駒ヶ根工場

澄んだ空気と清らかな水に恵まれたこの地に感謝し、自然環境の保護に努め、環境負荷の少ない商品づくりを続けています。



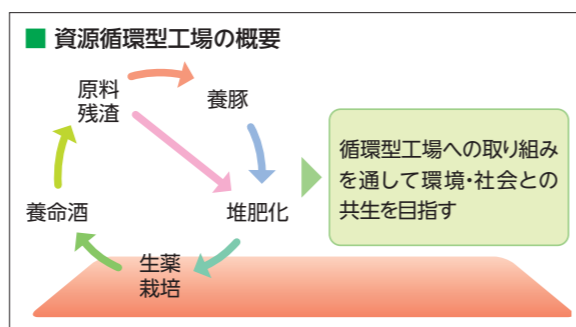
自然と調和する工場づくり

駒ヶ根工場は、多様性のある美しい森と清らかな水を守りながら、地形を活かした自然と調和する工場づくりを行っています。構内は山の傾斜を利用し、上方の建物から工程が進むごとに下方の建物に液体が流れる省エネ設計になっています。また、電線や配管は全て地下の共同溝に敷設するなど、自然環境との調和にも配慮しています。工場敷地内は、「人が癒される心地よい里山」をコンセプトに、「養命酒健康の森」として一般開放しており、工場入り口前の生薬試験栽培場は、2019年春に薬草園として生まれ変わる予定です。

資源循環型工場の取り組み

当社で発生する産業廃棄物の大半は、薬用養命酒等の原料である生薬のエキス抽出後に出る「原料残渣」です。再資源化の取り組みとして、この原料残渣を家畜の飼料や生薬の試験栽培の肥料にするリサイクル活動を推進しており、2016年度は原料残渣の100%を堆肥化もしくは飼料化して無駄なく活用しました。

また薬用養命酒の外箱・ラベル・計量容器(資材)の運搬に使用している段ボールの箱は、通い箱として繰り返し使用しています。



原料残渣を堆肥化し、生薬の試験栽培を行っている



原料残渣などを配合した飼料を与えて育てたオリジナルブランド豚「信州十四豚(シンシュウジューシーポーク)」

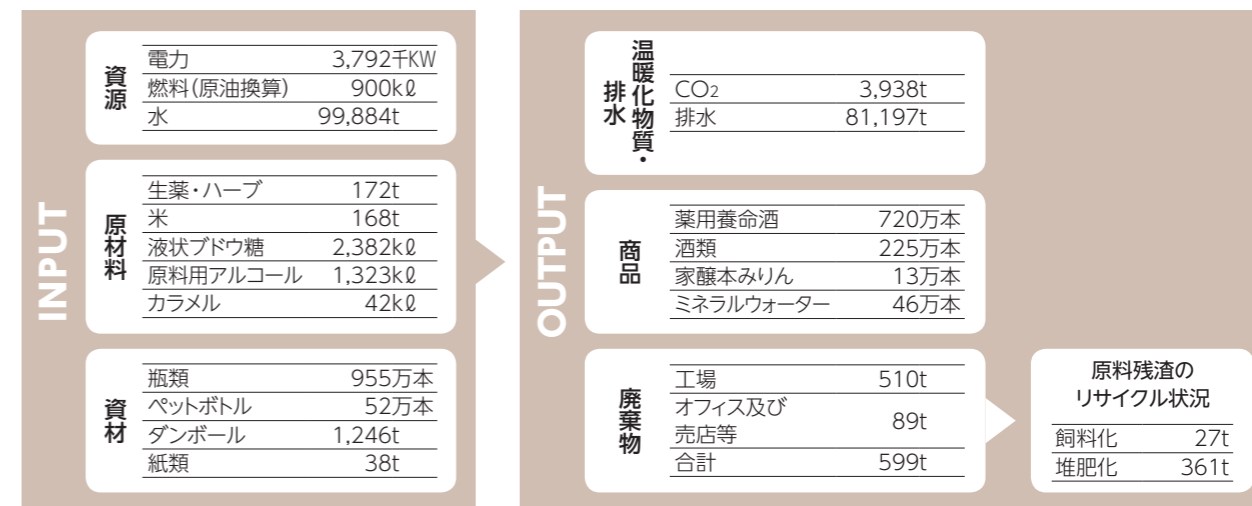
省エネルギー・省資源

駒ヶ根工場では、排熱エネルギーの活用、物流のモーダルシフト化などの省エネルギー・省資源に取り組んでいます。また、埼玉県鶴ヶ島市の太陽光発電では温暖化対策に取り組んでいます。

環境パフォーマンス

駒ヶ根工場では、薬用養命酒等の生産において、緑と水に恵まれた自然環境との調和と環境保全を考慮し、省資源・省エネルギー・再資源化・廃棄物削減など環境負荷の低減に取り組んでいます。

2016年度の環境パフォーマンス



鶴ヶ島太陽光発電所による自然エネルギーの活用

埼玉県鶴ヶ島市の工場跡地に約10,000枚のソーラーパネルを設置し、環境への負荷低減、電力供給の対策、地域の環境教育などの社会貢献を目的とした、太陽光発電事業に取り組んでいます。太陽光発電による2016年度の発電量は、約3,171千KWh^{※1}となりました。この発電量は、一般家庭500~600世帯分の年間電力消費量に相当します。これにより、年間1,717t^{※2}のCO₂を削減することができました。災害時には、地域の皆様が利用できるよう、蓄電池システム、電気自動車との相互電力供給、生活用水の提供などの設備を整えています。

※1・※2 一般社団法人太陽光発電協会「表示に関する業界自主ルール」に基づいて算出



鶴ヶ島太陽光発電所

(Photo Takumi Ota)

「eコラボ(エコラボ)つるがしま」での環境教育

太陽光発電所に併設された環境教育施設「eコラボつるがしま」では、地域の小中学生を対象にした環境教室など、環境活動の啓発につながるさまざまなイベントを実施しています。

2016年度は、個人と団体を併せて約1,700名の方が訪れました。「野鳥の観察会」「いきものががし」など、省エネや廃棄物の削減だけでなく、自然に親しむことを通じて、自然環境を大切に思うところを養う機会を提供しています。



環境省環境調査研究所の視察

2 いつまでも健康に

～すこやかな暮らしの実現～

生活者のポジティブな健康生活につながる情報の提供や啓発活動に取り組んでいます。

ハーブ・生薬のあるすこやかな暮らし

ハーブや生薬は、日本はもちろん、世界各地で古くから有用植物として薬用、料理、お酒、お茶、浴剤などさまざまな方法で使われており、最近ではボタニカル素材の化粧品やヘルスケア用品が注目されるなど、暮らしに取り入れる機会が増えています。長年、ハーブや生薬の研究・商品開発に取り組んできた当社は、「ハーブ・生薬のあるすこやかな暮らし」の実現に向けた取り組みを行っています。日々の体調に合わせて、ハーブティーを飲んだり、料理を工夫したり、香りでフレッシュしたり……といった、誰でも楽しみながら取り入れられる身近なセルフケアの習慣を提案しています。

ハーブ・生薬文化の継承、普及

「ハーブ・生薬のあるすこやかな暮らし」の実現に向けて、当社と同じくハーブ・生薬文化にゆかりのある自治体等と連携し、「ハーブ・生薬のあるすこやかな暮らし」が体験できる場や機会を設け、ハーブや生薬を身近に感じるきっかけづくりに取り組んでいます。

2016年7月には、薬草文化にゆかりのある茨城県水戸市との間で「薬草を活用した官民共同事業に関する協定」を締結し、水戸市植物公園内の薬草園を中心に据えた、新しい活動をスタートしました。「見る・触れる・食べる」といったさまざまな体験を通じ、ハーブや薬草を身近に感じられる活動を進めています。その他、身近な食材がもつ効能を楽しみながら知る機会として、薬膳メニューの開発と提供、「温育スパイスセミナー」などのイベントを開催するなど、さまざまな取り組みを行っています。



温育スパイスセミナー



薬膳カレー

未病セルフケア

近年、健康への意識は治療から予防へと移りつつあり、予防に努めることはすこやかな暮らしの実現につながるほか、社会保障費の抑制など社会的課題の解決にもつながります。生活環境の変化によって、「病気とまではいかないが健康を保てず、病気に向かいつつある状態」、東洋医学でいう「未病」にあたる人が増えており、当社は、この状況を社会的な課題と捉え、自治体や地域コミュニティ、企業、学校などと協力して、「未病」の予防とセルフケアの推進に取り組んでいます。

健康習慣のきっかけづくり

厚生労働省の「健康意識に関する調査(2014年2月)」によれば、健康のために何も行っていないと答えた人は全体の約半分を占めています。当社では身近な冷えや胃腸の不調、疲れなどの不調にポジティブに向かい合い、その予防と改善、対策のための健康セミナーを実施しています。2016年度は、志を共有する自治体・企業・団体等と協力して計26回の健康セミナーを開催し、1,130人の方にご参加いただきました。



代官山で学ぶ「食べて、巡らせる、薬膳レッスン」の様子



長野看護大学「女性のための健康講座」の様子

2016年度実施 健康セミナー内訳

	取組先	回数
自治体	長野県	4
	大阪府大阪市福島区	2
	埼玉県さいたま市	1
	神奈川県	1
	茨城県水戸市	3
企業	8社	10
カルチャー教室	2社	4
学校		1

ホームページに「養命酒NEWS」を新設

イベントや講座に参加されたお客様や当社発信の健康情報に興味を持っていただいたお客様との接点が1度きりにならないよう、「タイムリーに当社の活動をお伝えできる場所を」というコンセプトで、当社ホームページの「健康・知識」コーナーをリニューアルしました。今後は季節の健康情報などをタイムリーに発信していく予定です。



▶ www.yomeishu.co.jp/health/

メールマガジン「元気通信」の発信

健康にちなんださまざまなテーマを月替わりで特集し、レシピや雑学など皆様の健康生活に役立つより情報をお届けしています。知識だけでなく、すこやかな暮らしのアイデアやライフスタイルを提案しています。読者は年々増加しており、現在は約27万人に配信しています。



Webサイトにも「元気通信」のコンテンツを掲載しています
▶ www.yomeishu.co.jp/genkigenki/

読者様の感想(2016年12月号より)

- 特集の後の先生の解説がとてもためになりました。冷えが何故悪いか詳細がわかり、よかったです。(43歳・女性)
- 健康レシピ「酒粕入り海鮮チゲ鍋」のレシピが大変気に入りました!(37歳・女性)

未病セルフケアブックの発行

不調に気づきながらも「このくらいなら大丈夫」と無理をしまいがちな30～40代の働き盛り世代に向けて、「医師が教える病気になりにくい体のつくり方」未病セルフケアブックを発行しました。きちんと自分の状態に気づくことができる具体的なチェック項目と、症状タイプ別セルフケアを紹介しています。



資料請求
▶ www.yomeishu.co.jp/request/

NEWS 2017

「水戸 養命酒薬用ハーブ園」オープン 『こころとからだに薬用ハーブの贈り物 Birthday Herb』を刊行

2017年4月に水戸市との薬草を活用したプロジェクトのシンボルである「水戸 養命酒薬用ハーブ園」がオープンしました。同ハーブ園の開園を記念して、『こころとからだに薬用ハーブの贈り物 Birthday Herb』を刊行、ハーブの効用を暮らしに取り入れるアイデアを誕生日にちなんだ「バースデーハーブ」というテーマでとりあげているほか、水戸の薬草にまつわる歴史も紹介しています。



身近なハーブ活用術を紹介している書籍



「水戸 養命酒薬用ハーブ園」市民の憩いの場となるよう、シンボルツリー・キハダの周りに円形ウッドデッキを設置している

お客様とともに

～安全で安心な商品をお客様へ～

よりご満足いただける商品やサービスのために、お客様との対話を通じた信頼関係づくりに努めています。

お客様とのコミュニケーション

お客様相談室

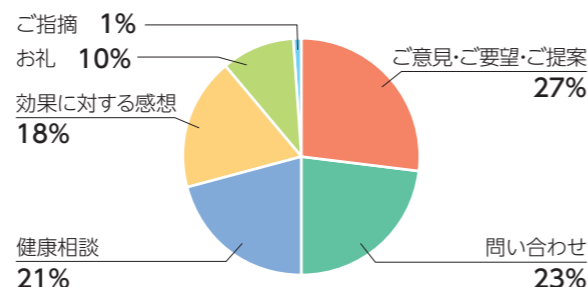
お客様相談室では、お客様の声一つひとつに真摯かつ丁寧にお応えするとともに、お寄せいただいた声を新商品の開発や商品・サービスの改善などに反映できるよう取り組んでいます。

主力商品の薬用養命酒にはお問い合わせ専用ハガキを同梱、お客様からお寄せいただいたハガキ約4万通全てに目を通し、一つひとつのお問い合わせやご相談に対してお返事を差し上げています。当社ではこうしたお客様との双方向コミュニケーションを大切に考え、1952年より続けています。



お寄せいただいたハガキ1通1通に目を通す

■ 専用ハガキによるお客様の声 (2016年度実績 / 43,128件)



相談室には年間約4万通のハガキが届く

お客様のご意見から生まれた商品の改善

お客様からお寄せいただいたご意見・ご指摘は、関連する部門に伝達し、課題や改善方法を協議・検討しています。お客様の声から学び、「お客様目線」でいただいた声の反映に努めています。

実際の改善事例

薬用養命酒は、2017年6月にお客様の利便性向上を目指し、容器とパッケージのリニューアルを行いました。お客様から寄せられた「瓶の口がベタついて固まり、キャップが開けにくい」というご指摘を改善するため、液だれを防止する中栓を付けるとともにキャップを開けやすい形状に変更しました。



瓶口に中栓をつけ、液切れを良くしました。



キャップ部分を大きくし、開け閉めしやすくしました。



箱の文字色を黒から白に変更し読みやすくしました。

使用上の注意

- 次の人は服用しないでください。
手術中は薬剤師などでお医者さん(医師)を指導
- 薬物又は機軸の運転操作を行う場合は控えてください。(アルコールを含有するため)
- 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
(1) 医師の指導を受けている人
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人
(3) 授乳中の人
(4) 薬名によりアレルギー反応を起こしたことがある人
(5) アルコールに過敏な人

「養命酒だより」

「養命酒だより」は、薬用養命酒ご愛飲家様への感謝とコミュニケーションを目的とした年4回発行の会員情報誌です。日々の暮らしの中で楽しんで実践いただけるよう、健康に役立つ気づきや薬膳レシピなど、思わずご家族やご友人に話したくなるコンテンツを紹介しています。また毎回投稿テーマを設けて会員様のお便りやインタビュー記事などを「養命酒かわら版」にて紹介しています。会員様向け感謝イベントも全国で定期的に開催しています。



養命酒だより健康セミナーの様子

読者の声

- 季節の適切な知りたい情報になるほどガッテンとすぐに安心・実行です。
- 毎回楽しみに読んでおります。封筒再利用の折り紙も娘たちと喜んで何枚も仕上げています。
- 今まで知らなかった体の健康のことがわかり、家族で話題にしています。これからも宜しくお願いします。



読者様よりお寄せいただいた投稿ハガキ

商品の品質と安全に対する責任

薬用養命酒は、医薬品医療機器等法で定められた許可要件である製造販売後安全管理(GVP)と品質保証(GQP)、製造管理および品質管理(GMP)に則って、確かな安全管理・品質管理を行っています。工場における品質部門と製造部門が連携し、品質管理と製造管理の両面からよりよい商品を工場から送り出せるよう日々努めています。



製品の安定供給のために

薬用養命酒は、14種類の生薬のうち1種類が欠けても製造することができません。輸入元の天候不順や急な価格高騰などのサプライチェーンリスクを回避するために、生薬の国内比率を5割以上に引き上げることを目指して国内栽培化等を進めています。これらもお客様に安全で安心な商品をお届けするために、長期安定的に原料が確保できる体制構築に取り組んでいます。

岩手県田野村「生薬センター」

岩手県と青森県で採取したクロモジ(生薬名:烏樟)の集荷加工拠点である生薬センターは、メハジキ(生薬名:益母草)やボウフウ(生薬名:防風)のテスト栽培とトチュウ(生薬名:杜仲)の管理を行うなど、当社の生薬調達における一大拠点となっています。

新潟県新発田市

新発田市は、従来より薬用作物の栽培に力を入れていた地域でしたが、東京生薬協会から派遣された栽培指導者がクロモジの自生を確認したことから、当社と協力してクロモジの安定供給と産業としての定着化を図っています。

山口県山口市

クロモジの安定栽培に向けた条件の検討のため、山口市の休耕地等を活用したクロモジ苗500本のテスト栽培を行っています。

長野県駒ヶ根市

駒ヶ根工場がある駒ヶ根地区の農業振興の一環として、駒ヶ根市との間で森林の里親協定を締結し、市有林の整備を協働して進めています。地域の農家と協力して、クロモジなど薬用作物のテスト栽培を行っています。



クロモジ定植の様子(駒ヶ根市)



ボウフウの試験栽培(岩手生薬センター)

4 地域社会とともに

～地域の発展に向けて～

コミュニティの一員として、地域との絆を大切に、地域社会の発展に貢献します。

地域交流への取り組み

地域社会に感謝し、イベントや支援活動を通じて地域社会との交流を深めています。

養命酒健康の森でイベントを開催

駒ヶ根工場内の「養命酒健康の森」では、駒ヶ根の自然を活かしたイベントを開催しています。近隣地域の皆様はもちろん薬用養命酒ご愛飲のお客様や観光客などたくさんの皆様にご参加いただいています。2016年度は、全53回のイベントを実施し、738名の方にお楽しみいただきました。

養命酒健康の森の主なイベント例



スパイスから作る本格カレー粉づくり



米麹から造る本格甘酒講座



森の間伐材を使ってシカのオブジェをつくる

2016森のジャズライブに協力

2014年度より、伊那市や箕輪町で開催されている地域を代表する音楽イベント「森のジャズライブ」に協力しています。箕輪町は当社の商品開発センター近くの平林森林公園が会場となるため、ライブ当日は商品開発センターの駐車場を来場者に開放するなど、積極的にサポートを行っています。



ジャズライブ当日の様子

NEWS 2017

駒ヶ根工場の工場見学施設をリニューアル

2017年4月に見学施設をリニューアルしました。新しいコースでは、薬用養命酒の製造工程をプロジェクトマップで紹介するほか、原料の生薬に直接触れられるコーナーやキッズコーナーなど体験型の展示を五感で楽しみながら見ることができます。



新設のディスカバリー「養命酒」ゾーン



生薬に直接触れることができる

地域貢献への取り組み

地域社会との相互交流を深めながら、地域活性化にも積極的に取り組んでいます。

直営ショップ「くらすわ」の取り組み

地元の生産者、企業の方々とともに

60を超える地元の生産者や企業の方々とコラボレーションを積極的に行い、信州発の魅力ある商品をお届けしています。



水彩画教室



高校生による水彩スケッチの展示

地域の交流・活性の場に

地域活性と地域の皆様同士の交流を目的とし、地元のアーティストを講師に迎えたワークショップ、地元・長野県下諏訪向陽高校の生徒によるミニ文化祭、岡谷南高校吹奏楽部による演奏会を開催し、たくさんのお客様にお越しいただきました。

Voice

提携農園の声

生活菜園(株式会社テスク)

塩澤 忠文 様



マルシェの開催やレストランへの食材の納入など、くらすわさんとお付き合いするようになり6年が経ちました。今もシェフやスタッフの皆さんに南信州の農園に足を運んでいただき、意見を交換させていただいております。消費者と生産者の声を相互に伝え、南信州の農産物と「くらすわ」をつなぐ「ハブ」としての役割をこれからも担っていければと思っています。

NEWS 2017

「信州十色」企画がスタート

信州の食や文化を発信する「くらすわ」では、長野県にある77の市町村を月替わりで紹介する企画をスタートしました。南北に長い長野県の風土から生まれる独自の「まち」の文化や、あまり知られていない隠れた魅力をお伝えしています。



地域のスポーツ大会への協力

花街道ウォーキング大会に「養命水」を提供

当社の商品開発センター近隣で毎年開催される「花街道まつり」に協賛、祭りの一環として実施されるウォーキング大会では、当社商品の「養命水」を提供しています。

長野県で実施されるマラソン大会に協賛

2016年度は、4月に開催された「長野マラソン」と5月に開催された「信州ながかわハーフマラソン」に協賛しました。

水戸黄門漫遊マラソンに協賛

2016年10月に水戸市で開催された第1回水戸黄門漫遊マラソンに協賛しました。当社商品の「ハーブプラス Herb+」をランナーの皆様にご提供しました。

水戸の伝統・文化・産業を知るきっかけづくり

水戸市との「薬草を活用した官民協働事業に関する協定」のプロジェクトの一環として、水戸の魅力向上、賑わいの創出、地域活性を目指した取り組みを実施しています。薬草にまつわる歴史や文化を資源ととらえ、2016年9月、伝統工芸である「水府提灯」とコラボした親子ワークショップ「薬草を愉しむ オリジナル水府提灯を作ろう!」を開催。11月には日本遺産である弘道館で、市民の方が集まる落語イベントを開催しました。



水府提灯づくり



日本遺産の弘道館



立川らく朝さんによる「健康落語」

地域の清掃活動への参加

当社の太陽光発電所とeコラボるがしまがある埼玉県鶴ヶ島市では、社員と地元のボランティアの皆様が協力して、地域の清掃活動を年2回行っています。また、本店周辺および駒ヶ根工場周辺の清掃活動も毎月1回実施しています。

社員とともに

～いきいきと働ける職場づくり～

社員一人ひとりがやりがいを感じられるよう、職場環境の整備と社内風土づくりに努めています。

多様性を尊重した雇用制度

社員一人ひとりのさまざまな価値観を尊重し、性別・国籍・信条・障がいの有無などにとらわれず、社員個々が持つ能力を存分に発揮できるよう、多様性を認め合う職場環境の整備に取り組んでいます。2016年度における新卒入社者の3年以内離職率は0%となっています。

社員数	(人)		
	2014年度	2015年度	2016年度
男性	186	183	185
女性	80	85	87
全体	266	268	272

新卒採用数	(人)		
	2014年度	2015年度	2016年度
男性	4	1	8
女性	1	3	0
全体	5	4	8

次世代を担う人材の育成

将来にわたって事業継続が可能な企業であるために、次世代を担う人材の育成に努めています。当社の研修の特徴は階層別研修です。部長・リーダー・若手等、役割や世代ごとに研修を行い、会社において果たすべき役割理解や意識付けを行うとともに、階層ごとの横のつながりを強化しています。また海外研修も行っており、異なる文化や価値観を学ぶことは、新たな価値を追求するヒントにつながっています。

自己啓発支援制度

社員の自発的な学習の支援のため、年間4万円を上限に資格試験受験やセミナー受講などの費用を会社が負担する制度を設けており、多くの社員が積極的に活用しています。

社員の声

ビジネス実務法務検定1級

経営管理部経営管理グループ
高藤 輝



私は新卒入社以来、法務・知財担当として、契約書の確認や商標の管理等を行っています。業務に必要な知識を身につけるため、ビジネス実務に即した本検定を受験しました。今後、学んだ知識を日頃の実務に活かしていきます。

海外研修制度

海外の食文化を学び、見聞を世界へ広げて感性を磨き、商品やレストランメニュー開発に活かすため、海外研修を実施しています。2016年度は、商品開発担当者6名がドイツとイタリアを訪問しました。



社員提案制度

企業風土改革の一環として全社員を対象とした社員提案制度を設けています。商品や販促のアイデアなど、2016年度は416件の応募がありました。「養命酒製造の黒酢」を使ったレシピや製品と一体化したPOPなど全体の4.3%にあたる提案が実際に採用されました。



黒酢を使ったアイディアレシピ



製品と一体化したPOP

ワークライフバランス

社員がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、さまざまなライフステージに応じた生き方が実現できるよう、会社として支援を行っています。当社は年間休日128日に加え、有給休暇はもちろん、在籍年数に応じたリフレッシュ休暇などさまざまな制度を設け、社員が心身ともに無理なく働ける環境を用意しています。特に子どもを育てながら働く社員が安心して働き続けられるように、育児休業や時短勤務制度等を活用しながら職場と家庭の両立ができるように力を入れています。2016年度の育児休業取得者数は4名(男性1名・女性3名)で、女性の育児休業取得率は100%です。また2017年度からは、子の看護(保育園早退や急な発熱)に対する独自の制度を創設します。また、残業時間は月平均15.9時間と対前年度比で4.7時間増加しました。今後は、No残業デーをとり入れるなど、残業時間削減に向け対策を講じる予定です。

有給休暇年間平均取得日数	(日)		
	2014年度	2015年度	2016年度
有給休暇取得日数(年)	6.3	5.7	4.8

育児・介護休業取得件数	(件)		
	2014年度	2015年度	2016年度
育児	4	3	4
介護	0	0	0

月平均残業時間の推移	(時間)		
	2014年度	2015年度	2016年度
残業時間	8.7	11.2	15.9

Voice

育児休業取得者の声



経理部

佐野 枝里

産休と合わせて1年半ほど休業しました。休業中は娘の成長を日々感じながら充実した時間を過ごせ、復帰した今は、16時までの時短勤務で働いています。保育園に早く迎えに行くことができ、娘も無理なく毎日を過ごせています。仕事と育児を両立できる環境だと感じています。

いきいきと働ける職場環境づくり

皆様の健康生活に貢献する企業として、まずは当社で働く社員が心身ともに健康であり、安心していきいきと働くことができるよう、職場環境の整備に力を入れています。

3A運動

3A運動(あいさつ、ありがとう、明るくきれいな職場)を推進し、礼儀正しく、お互いを尊重しあう組織風土づくりに取り組んでいます。今年度は、「明るくきれいな職場」をテーマに書類削減やコピー用紙削減に取り組み、1年間のコピー用紙量を約10%削減しました。



定期的に発行している3A通信

労働安全衛生の取り組み

労働災害を未然に防止するという考えのもと、社員の安全意識の向上と管理強化のため月1回安全衛生委員会を開催し、安全教育や制度整備に力を入れています。

社員のこころとからだの健康サポート

社員の心理的負担を把握するための検査(ストレスチェック)が義務化されました。当社は検査対象をパートナー社員に拡大し、組織分析を通じた職場改善に努めています。実施後のサポートとして、過大なストレスがかかる社員には産業医や提携医療機関による面接のほか、外部相談窓口も設けています。また、健康診断には法定以上の項目も加え、生活習慣病等の健康リスクに対して社員自らが改善できるよう働きかけています。

レクリエーションの実施

社員の心身のリフレッシュおよび社内コミュニケーションの活性化を目的として、事業所ごとにレクリエーションを実施しています。



陶芸体験の様子

6 CSRを支えるしくみ

～信頼される企業であるために～

ステークホルダーの皆様の期待に応えられる企業であるためにコーポレート・ガバナンスおよび内部統制のさらなる充実を図っています。

コーポレート・ガバナンス

当社は、社会や市場の要請にお応えする能力をより一層高め、ステークホルダーの皆様のご期待に沿った経営を実践するため、特に3つの視点を重視した施策を展開しています。

- 資本市場や株主各位をより強く意識した経営の実践
- 経営の意思決定体制の強化と迅速性の向上
- 経営監督機能の強化

コーポレート・ガバナンス体制

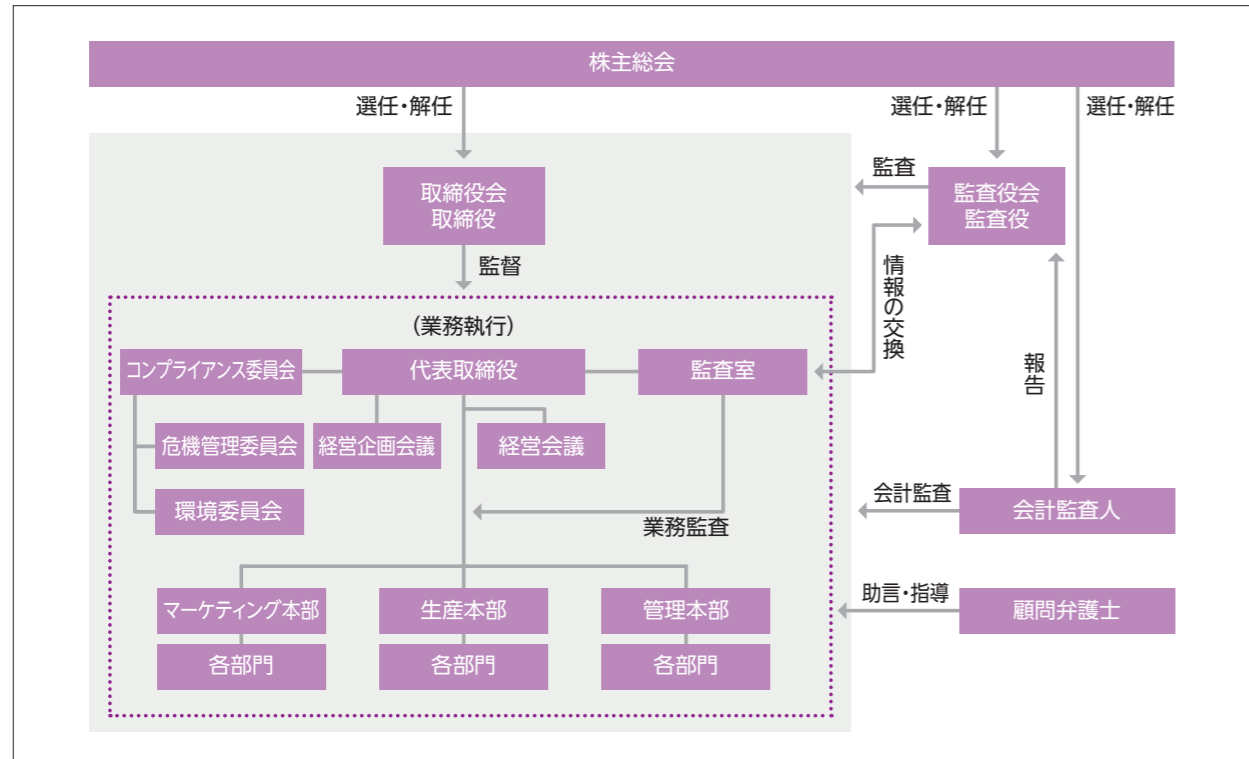
コーポレート・ガバナンス体制において、その有効性をより高度に発揮できるように、執行役員制の導入、取締役の人員の適正化、経営会議体などの充実を図っており、これらの施策が有効に機能していると判断しています。

当社は、監査役設置会社であり、監査役4名のうち3名が社外監査役の体制をとっています。また、取締役11名のうち1名が社外取締役であり、これらの社外役員は、独立的な立

場から経験・見識等を活かした経営の監督または効率的な監査を行うとともに経営全般についての助言や意見交換を行っています。

また、コンプライアンス体制についても、コーポレート・ガバナンスの根幹であるとの認識に基づき、法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、企業の社会的責任を意識した企業倫理を確立してまいります。

■ 内部統制システムを含むコーポレート・ガバナンス体制



内部統制

当社は、ステークホルダーの皆様とともに、健全で持続的な成長を続けるため、内部統制を的確に整備・運用していくことが重要であると考えています。会社法に基づき、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会にて決議し、整備に努めています。また、当社の内部統制システムに関する基本的な考え方と体制の整備状況については、「コーポレート・ガバナンス報告書」で開示しています。

ステークホルダーとの対話

当社は、さまざまな機会においてステークホルダーの皆様との対話を深め、その評価やご意見を真摯に受け止めて、当社の事業活動及びCSR活動等に反映させるよう努めています。当社がステークホルダーの皆様と関わりを持つ主な機会は次の通りです。

■ ステークホルダーとの主な対話の機会(2016年度)

ステークホルダー	主な対話の機会(数値は2016年度実績)
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様相談室 ● お問い合わせ専用ハガキ(43,128通) ● メールマガジン「元気通信」(会員数約27万人) ● 養命酒だよりの配布(会員数 61,747人) ● 健康セミナー開催(26回/約1,130人参加)
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主総会(毎年1回/6月に開催) ● アナリスト向け決算説明会(年2回/5月と11月に開催) ● 施設見学会(不定期開催) ● 個人投資家向け会社説明会(不定期開催) ● 株主通信(年2回発行)
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動を通じたコミュニケーション ● 国内外の生葉調達先への訪問、意見交換会 ● その他原材料調達先への定期訪問(3か月に1回) ● 製造委託の取引先訪問、意見交換
社員	<ul style="list-style-type: none"> ● 人事評価を含む面談、イントラネットによる頻繁な情報発信、電子メールやチャットを活用した相互コミュニケーション ● レクリエーション(年1回) ● 創立記念式典、中期経営計画報告会、新商品発表会 ● 労使会議
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 駒ヶ根工場・養命酒健康の森 体験イベント ● 「くらすわ」のアンテナショップとしての役割・地域振興 ● 鶴ヶ島太陽光発電所のeコラボ祭り ● 各地域におけるイベントへの協賛や社員の参加 ● 工場周辺および本店近隣地域の清掃活動等

知的財産の尊重

発明、著作物、商標、商号等の「知的財産」を保護し尊重することは、事業活動を継続する上で大変重要な要素です。当社では、今から400年以上前に創製された「養命酒」に関連する商標を日本はもとより世界各国で所有しています。将来にわたって安定的に事業を継続するため、第三者の知的財産を尊重するとともに、商標「養命酒」を始めとした当社の知的財産を守り、ブランド価値の拡大と企業価値の向上に日々取り組んでいます。

コンプライアンス

当社では、法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、企業の社会的責任を意識した企業倫理を確立すべく行動規範を定め、個々の役職員が遵守するよう推進しています。また、コンプライアンス経営の強化を図り、「コンプライアンス委員会」の設置や「内部通報制度運用規定」の制定などにより、企業の社会的責任に基づいた企業倫理の確立に向けて、総合的なコンプライアンス体制の確立を進めています。

コンプライアンス体制

当社は、「養命酒製造 行動規範」の実践を始めとし、企業倫理を高め、法令を遵守し、公正で誠実な経営を実践すること、およびコンプライアンス意識の普及啓発を行うことを目的として「コンプライアンス委員会」を設置しています。コンプライアンス意識の普及啓発のため、各種研修の実施や毎月のコンプライアンス関連情報の提供を行うとともに、各部門のコンプライアンスリーダーを通じて各職場に合ったコンプライアンス意識の普及啓発を行っています。

内部通報制度の整備と運用

コンプライアンス経営の一環として内部通報制度を導入し、従業員等(出向者、契約社員、派遣社員等を含む)は、不正、違法、反倫理的行為が発生した場合やその恐れがあると判断した場合は、専用窓口に通報することを「内部通報制度運用規定」に定めています。

また従業員等がこの制度を積極的に活用できる社内風土の醸成に努めるとともに、窓口以外には通報者の情報を秘匿するなど通報者の保護を規定し、通報者が通報した行為によって、懲戒処分や不利益な配置転換などいかなる不利益も被らないことを徹底しています。

反社会的勢力に対する基本的な考え方

反社会的勢力に対しては毅然として対応することとしており、「養命酒製造 行動規範」において「私たちは、政治、行政との健全かつ透明な関係を保つとともに、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは毅然として対応し、一切関係を持ちません。」と反社会的勢力の拒絶を明確に記載しています。反社会的勢力への対応は担当部門が統括し、外部専門機関との連携を密にし、反社会的勢力についての情報の収集や対応についての助言を得るなど不測の事態に備えています。また、対応マニュアルを整備し、周知を図るとともに研修を実施しています。

国際ルールや各国の法令の遵守

国際社会の一員として、国際的なルールや当社の事業に関わる諸外国の法律を遵守するとともに、現地の文化や習慣等も尊重し、それぞれの国の発展に貢献する経営を行っています。

公正な取引

当社は、調達にかかわる法規制やルールを遵守することはもちろん、お取引先との公正で透明な取引を徹底するため、「養命酒製造 行動規範」において「私たちは、公正、透明、自由な企業間競争ならびに適正な取引を行い、不当あるいは不正な手段による利益追求は行いません。」と定めています。

リスクマネジメント

当社は、コンプライアンス上のリスク把握や事業継続上の危機管理、お客様情報等機密情報の漏えいリスクなど、社会・環境・経済面で想定される多種多様なリスクに対応する体制づくりを進めています。リスクマネジメントの体制強化のために「コンプライアンス委員会」の諮問機関として「危機管理委員会」を設置し、予想されるさまざまなリスクの管理、責任体制及びディスクロージャーを含む迅速な対応の確立に努めています。

実際にリスクが発生し、重大な損害が予想される場合には、「コンプライアンス委員会」が対応するとともに、代表取締役、監査役、取締役会及び経営企画会議に報告することとしています。また、事業活動全体におけるリスク管理は、各関係部門で規定やガイドラインを制定し、これらを社内に周知するための研修を行うとともに「危機管理委員会」が社内規定に基づいてリスクの把握とリスク対策の検証を行っています。

BCP(事業継続計画)の策定と運用

大地震や巨大台風等の自然災害及び感染症の大規模な流行時でも、事業の継続や早期復旧ができるよう、必要な対策や手順についてまとめた事業継続計画を2011年度に策定しました。さらに、常に事業継続に対する意識の高い企業体質・企業文化の醸成を図っています。

災害備蓄

地震等の大規模災害に対する備えとして、各事業所在館者の概ね3日間分の飲料水や食料品等を備蓄しています。一部事業所では帰宅困難者の受入れも想定し備蓄品を多めに確保しています。また、社員及びその家族に対し、メールによる安否確認システムを導入しています。

情報セキュリティ

当社は、全ての情報資産に対する機密性、完全性、可用性の確保・向上のため、情報セキュリティに係る規定・基準のもと、情報セキュリティ管理体制を構築し、情報資産に応じた適切なセキュリティ対策の実施、全役職員に対する教育訓練の実施等に取り組んでいます。

情報セキュリティ管理体制

当社は、情報セキュリティの管理を統括するため、経営管理部長を「情報セキュリティ管理統括責任者」に任命しています。また、情報資産の保護に万全を期するため、各部門に「情報セキュリティ管理責任者」を置き、各部門長がこれを務めています。情報セキュリティ管理責任者は、情報セキュリティに係る規定・基準の策定・見直し、情報資産保護に係る管理対策の策定・見直し、その管理対策の遵守状況の把握、全役職員の情報セキュリティ対策に係る教育訓練等の情報セキュリティ施策を推進しています。

個人情報の保護

当社では、通信販売をご利用のお客様、各種キャンペーンやイベント等にご応募いただいたお客様など、多くの方の個人情報を保有しています。これらの大切なお客様の情報を守るため、個人情報保護法及び各種のガイドライン等に基づき、個人情報保護に取り組んでいます。

「養命酒製造 行動規範」には、「私たちは、有形・無形の会社財産や秘密情報の適切な管理と保全に努めるとともに、個人情報や顧客情報の厳重な管理と保護を徹底します。」と明記しています。

また、個人情報の保護・管理及び利用について定めた「プライバシーポリシー」を当社のホームページで開示しています。

商品紹介&会社の歩み

薬用養命酒は、1602年に創始者塩澤宗閑翁の健康への願いから創製され、今日までの400年以上にわたり皆様の健康生活に貢献しようとする精神を連綿と受け継いでまいりました。

薬用養命酒 第2類医薬品

薬用養命酒は生薬の有効成分による穏やかな作用で、体調を整えて、健康へと導く薬酒です。



ハーブの恵み



ハーブのお酒

琥珀生姜酒



高麗人参酒



フルーツとハーブのお酒



はちみつのお酒



五養鍋シリーズ



五養粥



くらすわブランド商品

食べる前のうるる許Beauty



ビューティー&ヘルスケア商品

グミ×サプリ



ハーブプラス Herb+ 指定医薬部外品



その他・通信販売

家醸本みりん



養命酒製造株式会社の歩み

<p>1602 「養命酒」、信州伊那の谷・大草(現在の長野県上伊那郡中川村大草)の塩澤宗閑翁によって創製</p> <p>1923 長野県上伊那郡に株式会社天龍館設立 塩澤家より「養命酒」の事業を継承</p> <p>1925 東京・渋谷に天龍館東京支店を開設、「養命酒」の全国販売に踏み出す</p> <p>1951 長野県岡谷市に岡谷工場を新設、商号を養命酒製造株式会社に改称</p> <p>1953 京都府宇治市に関西支店(のち京都市を経て1971年に大阪市に移転、大阪支店と改称)を開設</p> <p>1955 東京証券取引所に上場</p> <p>1961 埼玉県鶴ヶ島市に埼玉工場を新設(2006年に閉鎖)</p> <p>1964 長野県岡谷市に技術研究所を開設</p> <p>1972 長野県駒ヶ根市に駒ヶ根工場を新設(同年岡谷工場を閉鎖)</p> <p>1975 長野県上伊那郡箕輪町に中央研究所を新設(同年技術研究所を閉鎖)</p> <p>1982 「家醸本みりん」を発売</p> <p>1989 本店新社屋が竣工</p> <p>2002 養命酒創始400年記念式典開催 養命酒創始400年記念館竣工</p> <p>2005 大正製薬株式会社との業務・資本提携を発表 駒ヶ根工場に「養命酒健康の森」開設</p> <p>2010 「ハーブの恵み」を発売 長野県諏訪市に商業施設「くらすわ」を開業</p> <p>2011 「ハーブプラス Herb+」を発売</p> <p>2013 「食べる前のうるる許 Beauty」「フルーツとハーブのお酒」を発売 埼玉県鶴ヶ島市に「鶴ヶ島太陽光発電所」を開設</p> <p>2014 「鶴ヶ島太陽光発電所」に見学施設「eコラボ(エコラボ)つるがしま」を開設</p> <p>2016 「琥珀生姜酒」を発売 機能性表示食品参入</p>	<p>1923 旧第一工場(「養命酒」発祥の地)</p> <p>1951 牛に乗って販促活動</p> <p>1955 宣伝カーによる拡販活動</p> <p>1964 旧本店社屋</p> <p>1989 本店新社屋</p> <p>2002 養命酒創始400年記念館</p> <p>2006 インターネット通信販売サイト「養命酒本舗」開設(2012年に「Yomeishuオンラインショップ」にリニューアル) 「幸健生彩」を発売</p> <p>2011 「養命水」「カンカ」を発売</p> <p>2014 「eコラボつるがしま」(埼玉県鶴ヶ島市) Photo Takumi Ota</p>	<p>1994 中央研究所新棟が竣工(2014年に商品開発センターに改称)</p> <p>2010 「くらすわ(長野県諏訪市)」</p> <p>2013 「鶴ヶ島太陽光発電所」(埼玉県鶴ヶ島市)</p> <p>2017 「高麗人参酒」「養命酒製造の黒酢」を発売 養命酒駒ヶ根工場見学施設リニューアルオープン</p>
---	---	---